

広報



かわにし

昭和 57 年 1 / 10 No. 281

948-01 中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (☎ 02576-8-3111)

発行 町長 根津正三 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

(毎月 10 日 発行)

人口の動き

- 1 月 1 日 現在 -

男 4,980 (-3)

女 5,066 (+4)

計 10,046 (+7)

世帯数 2,353 (+1)

() 前月 比較



正月マラソン大会は、今年が八回目です。

二日の午前十時三十分、Aコース一組から順番に総合センター前をスタートしました。

この日は、あいにくの雪で、道路はビショビショの状態でした。

百七十人ほどの参加者は、そんなことはあまり苦にもせず、二キロから五キロまでのそれぞれのコースで、沿道の人たちの声援を受けながら、全員完走しました。

昨年は、豪雪のため中止となっていましたので、主催者側は、朝からの雪に悩まされながらも、無事実施できたことを喜んでいました。

1 月の休日救急医

15日	千手診療所	
17日	水沢診療所	(土市)
24日	中条病院	(中条)
31日	至誠堂医院	(西浦町)

2 月上旬の予定

7日	池田医院	(本町西)
11日	山口医院	(袋町)

議会 報告

第十二回町議会定例会が、先月二十二日から二十四日までの三日間の会期で開かれ、主な審議事項は、五十五年度の各会計の決算認定、条例改正、五十六年度会計の補正、それに町政に対する一般質問などです。決算内容の詳細（一般会計）は別掲としましたので、ここでは、そのほかの主なものについてお知らせします。

一般質問は五氏

臨調答申の扱い方など

◆若山三郎議員

- ①母子健康センター運営について
- ②臨調第一次答申職員定数の削減について

◆根津町長

①母子健康センターは昭和四十年に建築、四十一年一月に開所、以来十六年間に千五百八十八人の子供が取り上げられている。五十年には川西町で生まれた子供のうち九十人がセンターを利用したが、五十五年には百十人のうち、四十三人しか利用していない。このように時代の推移で年々利用者は減っているが、費用の点では病院利用の半額くらいである。

特別交付税で措置されるなど、一般財源の充当はほとんどないの、今後も母子検診や指導などの面で利用していきたい。

運営に当たっては十分考えていかなければならない点もある。

- ②本庁職員は類似団体に比べて十人多く、保育所、診療所などの施設職員は三十九人多い。施設を造って住民サービスをやり、雇用を増大したのであるが、改善の必要があれば改めていく。

臨時職員については、町の職員として活躍してもらいたい人も大ぜいいる。新陳代謝も図らなければならず、採用の道も開いてやりたい。

◆上村広治議員

- ①役場職員の新採用について
- ②水田利用再編対策について

◆根津町長

①川西町は昭和三十一年に合併以来、業務、施設などの拡大に伴い

現在は当時の二倍の職員数になっている。

採用については、五十六年まで一般公募制試験をやってきたが、その後は定数抑制のため公募をやめ、暫定補佐員の中から県人事務組合の試験により採用している。保母、用務員は公募している。

臨調でも自然減を利用して定数減を図るよう指摘している。理想的な年齢構成にはほど遠い。

公募による新採用は、臨調答申ともからめて今後検討していきたい。

- ②水田利用再編対策も二期に入っている。転作作物が定着しない中で生産調整が行われている実態である。米の生産は適地適作でやってもらうよう強く要望している。

転作作物の流通対策と価格保障強化を願いたい。転作目標達成が食糧制度を守り、食糧の自給率向上や公共事業導入にも大きく影響する。川西町の五十六年度の達成率は一〇・三・五七パーセントだった。深く感謝申し上げる。

基盤整備による農家負担は転作がからみ重いものとなっているが、これも財産づくりのためと考えていたきたい。

計画化、団地化を部落ごとに積極的にやってほしい。町、農協、土地改良区など関係団体で協力し、将来の転作定着のため努力願いたい。

◆登坂 茂議員

- ①今年冬の県道・町道の除雪について

②県道・大倉地内の段切り工事促進について

◆根津町長

- ①豪雪を克服することが住みよい町づくりに連なる。五六豪雪は数数の体験と教訓、それに災害を残した。除雪体制が前の年より後退することは許されない。

いかなる事情があるにせよ無制限に道路に雪を出されては道路の機能維持はできない。除雪協力会の方々が地域住民の方々を指導しているがご協力をお願いしたい。

- ②県道小白倉木落線が暮れに死亡事故が起こったが、まことに痛ましいことだった。地域関係者の熱意のもとに開削され、県道に昇格した路線である。五六豪雪も切り抜けている。運行者のいっそうの注意を呼び掛けたい。

大倉地内は、引き続き工事を進めている。しかし昨年の大雪ではなだれ防止柵が傾くなど防雪効果も薄かった。

この路線は、五十七年四月から国道四〇四号線に昇格する。改良整備期成同盟会を結成し、早期になだれのない場所にしよう要望していく。

◆戸田哲次議員

- ①予算編成の原点について

- ②自然災害防止事業債と川西町の対応について

◆根津町長

①地方自治体は、二割自治とか三割自治とかといわれるとおり、国や県の予算に左右される町づくりの要素が非常に多い。

政府の五十七年度予算編成方針によれば、・内需の拡大による景気回復・臨調答申の尊重・財政再建が柱である。

町予算については、新年早々から編成作業に入るが、極力むだを省き投資的分野を充実させていきたい。全町民が町づくりに協力してくれるような予算編成となるよう、また臨調第一次答申に添うよう努力する。高速交通時代に対応して、若者が喜んで住める町づくりが目標である。

- ②自然災害防止事業債制度は五十三年度に創設された。町でも五十四、五十五の両年度にわたり山野田川、浄土川、藤沢地内の段切り工事で千五百二十万の借り受けをしている。

起債は元利償還の際、最低二五パーセントから最高五七パーセントまで特別交付税で措置されるという有利なものである。（川西町の五十七年度分の試算では四〇パーセントくらい）

極めて取り組みやすい事業であるので、適切な考えによって対応する。



定例会 最終日

- ◇田中三郎議員
- ①川西町と十日町市を結ぶ新大橋架橋運動の促進について
 - ②川西町河川愛護会の全町一本化について
- ◇根津町長
- ①川西、十日町間の浅川原付近の交通渋滞は年々増している。十日町橋と栄橋の間の橋として国鉄鉄橋を利用することは適当でないとのことだ。
 - ②国道三三三線の改良が全線終了してから中間橋を考えると建設省ではいつていたが、その時期が到来した。
- ルートを決めるには、まず結束が重要と思うので十日町市と話し合いたい。両議会でも話し合ってほしい。

55年度決算 総額4,343万円を繰り越す

55年度の各会計の決算は別表のとおりです。
一般会計では3,489万円の黒字、特別会計では4つの会計が黒字となり、総額で4,343万円が翌年度に繰り越されました。

55年度 各会計の決算状況 単位：円

会計区分	歳入	歳出	差引額
一般会計	2,613,323,755	2,578,427,461	34,896,294
特別会計			
国民健康保険	409,519,608	400,434,220	9,085,388
国保診療所	83,632,981	81,251,108	2,381,873
仙田へき地出張診療所	16,031,694	21,908,118	△ 5,876,424
歯科診療所	44,049,794	67,120,353	△ 23,070,559
農業共済事業	83,814,479	58,497,318	25,317,161
簡易水道	218,658,927	217,958,281	700,646
合計	3,469,031,238	3,425,596,859	43,434,379

②信濃川のたび重なる洪水に地区住民は生活を脅かされてきた。五十年に約十キロの堤防がつながり、そのときに河川愛護会ができた。愛護会は、信濃川につながる小河川の改修についても強力な運動をしてきた。

みんなで川をきれいにするため、町をあげて対処せよとのことだが、公衆衛生推進協議会の住みよい郷土づくりの一環として衛生思想の普及に努めたい。現在の愛護会とは性格が違うが、新年度を期し全町一本化を図りたい。

条例の制定と改正

▽特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
冬期集落保安委員の月額を改正しました。

▽藤巻褒賞金の設置管理及び処分に関する条例制定
藤巻力雄先生からいただいた寄付金を、上野小学校児童の健全育成のための基金として設置しました。

請願は三件

▽川西町職員の給与に関する条例の一部改正
給料表などの改正がありました。

▽千手地区県道街路灯改設に関する請願
産業厚生常任委員会に付託継続審査

▽庚塚運動場夜間照明施設に関する請願
総務文教常任委員会に付託継続審査

▽地域の公共交通確保に関する請願
総務文教常任委員会に付託継続審査

雪害対策

特別委員会を設置

委員は次の方々です。

(敬称略)

- 滋野一郎 ○戸田哲次
- 小海貞二 ○押木元男
- 高橋弥太郎 ○登坂茂
- 平野正義 ○高橋礼三

一般会計は

大幅な補正

▽五十六年度一般会計補正予算 (第五号)

積雪の比較

午前9時現在 (単位：cm)

月日	57年		56年		55年
	分道所	川西ダム	分道所	川西ダム	分道所
1. 1	0	14	170	220	1
1. 5	0	15	210	257	0
1.10	4	30	224	260	21
1.15			350	370	60
1.20			345	385	137
1.25			360	382	180
1.31			372	393	130

馬場下禪さん叙勲

昨年十二月六日にお亡くなりになられた馬場下禪さん(元町)に勲六等瑞宝章が贈られました。馬場さんは、長年川西町議会議員として活躍され、この間昭和三十一年から三十四年までは議長の大任にありました。

九千五百六十二万一千円を追加し、歳入歳出予算の総額はそれぞれ二十六億九千二百七十九万九千円となりました。

歳出で目立つのは、久保山用地購入費が二千二百一十九万九千円、歯科診療所特別会計繰出金の二千三百七十一万一千円、それに公共土木施設災害復旧費の工事請負費が一千万九千七百一十一万九千九百九十九円増加したことなどです。このほかに給与条例改正に伴う増加などがあります。

▽特別会計についてもそれぞれ補正がされました。

思いやりのある

町づくりの年に

町長 根津 正三



昭和五十七年の輝かしい新春を迎え、皆様のご健康とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

今年もまた厳しい町財政のもとで、多くの仕事に取り組まなければなりません。皆様の変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

今年もまた厳しい町財政のもとで、多くの仕事に取り組まなければなりません。皆様の変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

今年もまた厳しい町財政のもとで、多くの仕事に取り組まなければなりません。皆様の変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

ています。

昨年の十一月二十日には、合併二十五周年記念式典を挙行了しました。四半世紀にわたる行政を反省するとともに、今後の川西町の発展に処する決意をさらに新たにしています。町民が心を一にして町づくりの理想に向かって進むために町民憲章を制定しました。また、交通安全思想を高揚し、全町民が心を合わせて悲惨な事故を一掃しようということで交通安全憲章が生まれました。

みぞうの大雪を記録した「五六豪雪」は大きな被害を残しましたが、今後の豪雪対策のために大きな試練と教訓に残しています。年々の事柄が川西町の歴史に刻み込まれ、

新春のごあいさつ

議長 小川 清次



昭和五十七年の輝かしい新春にあたり、まづもって、万町民皆様方のご健康とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

昨年八月には、任期満了による議会改選が

二十五五年が経過しました。高度経済成長の荒波は大きな過疎化現象を残しましたが、反面大きな発展的変ぼうをもたらしました。すべての町民が、またすべての団体が丸となった町づくりに専念したたまものです。しかし反省すべきこともたくさん出てきました。経済は安定成長に移行し、町づくりもある程度進行した今日、むだを省き、見直しを行って行財政に弾力性をもたせ、やらなければならぬことはやれるようにしておくことが急務です。

このことから、町でも国の臨時行政調査会にならって、川西町臨時行政調査会を設けて諮問し、昨年十二月七日に第一次答申を受

行われ、議員定数も二十八から二十人に減じています。少数ながら、最善を尽くして町政の運営に誤りのないよう、また町民の皆様のご期待に添うようさらに決意を新たに、川西町発展のため努力してしますので、今後ともよろしくご指導とご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

政府においては、国の財政再建のため、臨時行政調査会の第一次答申を受けて、昭和五十七年度の予算を「ゼロシーリング」で組むとのことです。

川西町でも、政府の方針にのっとり、県内の市町村に先がけて川西町臨時行政調査会を昨年の十一月に設けて、町行政の合理化・効率化の推進および財政の再建に関する緊急課題を諮問し、十二月七日に第一次答申が行われましたが、その内容は、実に厳しいものです。二月には第二次答申が出される運びとなっています。

町当局で、これら答申事項をいかに行財政

け、さらに二月には第二次答申をいただくことになっています。内容は極めて厳しいものですが、町の将来を考え、勇断をもって昭和五十七年度予算からできるだけ実行に移していきます。むだを省いて重点事項を積極的にいうことです。いろいろの面で影響がでますが、いっそうのご協力をお願いします。

先輩各位が培った川西町二十五五年の歴史の上に立って、社会情勢の変化と住民意識の変ぼうに対応しながら、職員一同心を合わせて職務に専念し、町民の皆様のご期待に添うよう、さらに決意を新たにしております。

今後とも町の発展策について英知を出し合いますが、町民の皆様からも低成長に移行していただきますので、耐えていただかなければならぬこともあります。年頭にあたり、特に町づくりのため、ご協力、ご尽力をお願い申し上げます。

川西町は農政面をはじめとして、教育、道路、治山治水、それに社会福祉、保育施設など、おおむね充実してきました。今後は雪害対策や住民の安全対策、青少年の健全育成、若人の職場開発等々、地域の振興に向けて町民皆様の総意のもとに、ますますの町発展を望むものであります。

本年も川西町各地域の実情を把握しながら、調和のとれた町づくりのため尽力いたしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

転作目標面積

57年度は121.8ha

このたび、新潟県知事から昭和57年度水田利用再編対策目標面積と57年度米事前売渡申込限度数量分配についての内示がありました。

これによりますと、川西町への配分数量は、転作目標面積が121.8haで前年度より1ha多く、また売渡申込限度数量では60,626俵で前年度より159俵少なくなっています。

◎配分数量 ()内は56年度

・57年度転作等目標面積 [ア+イ+ウ+エ]
121.8ha (120.8ha)

内訳 ア. 第2期期間中転作等目標面積
129.8ha (129.8ha)

イ. 56年度未達成面積 -ha (-ha)

ウ. 57年度特別緩和面積8.0ha (9.0ha)

エ. 出入作調整面積 0.0ha (0.0ha)

・57年度米事前売渡申込限度数量
60,626俵 (60,785俵)

内訳 うるち米 57,216俵 (56,301.5俵)

もち米 3,410俵 (4,483.5俵)

◎川西町の配分方法

- ・1月下旬から2月上旬ごろまでに部落ごとの配分を行う予定です。
- ・部落別目標面積は、56年度未達成の部落、および面積移動の大きい部落など、特定の部落を除いては、56年度目標を微調整し、配分する予定です。
- ・転作推進の基本的事項は、56年度と同様「部落ぐるみの話し合いによる集団転作の推進」とします。

一日一円の安い掛金でお互いが助け合い、万一の場合最高百万円の見舞金を受けられる交通災害共済の加入募集期間がやってきました。昭和五十六年度の川西町の加入者は八千五百十二人、加入率は八四・八パーセントです。見舞

金も簡単です。さて、五十七年度の加入者の募集は、まもなく町内の嘱託員を通して行うことになっています。現在加入されている方も三月末日で共済期間が終了しますので、引き続き加入されるようおすすめする

- ・川西町役場会計窓口
- ・川西町農協千手支所
- ・上野支所
- ・橘支所
- ・仙田支所
- ・県信用川西支店
- ▽加入申し込み受け付け場所

交通災害共済

家族そろって加入しましょう

金の給付状況は二十三件・百十七万円(五十六年十二月末現在)とたいへん多くの方々に給付されています。

まだ一五パーセント余りの方が未加入であり、この中で事故に遭い見舞金を受けられない方が何人かいることは残念なことです。自動車による事故はもちろんのこと、歩行中の車による事故、自転車事故(小児用は除く)、バイク、耕うん機などの車両による事故はほとんど給付対象となり、請求手続きも簡単です。

また、五十七年度の加入者の募集は、まもなく町内の嘱託員を通して行うことになっています。現在加入されている方も三月末日で共済期間が終了しますので、引き続き加入されるようおすすめする

金も簡単です。さて、五十七年度の加入者の募集は、まもなく町内の嘱託員を通して行うことになっています。現在加入されている方も三月末日で共済期間が終了しますので、引き続き加入されるようおすすめする

金も簡単です。さて、五十七年度の加入者の募集は、まもなく町内の嘱託員を通して行うことになっています。現在加入されている方も三月末日で共済期間が終了しますので、引き続き加入されるようおすすめする

金も簡単です。さて、五十七年度の加入者の募集は、まもなく町内の嘱託員を通して行うことになっています。現在加入されている方も三月末日で共済期間が終了しますので、引き続き加入されるようおすすめする

とともに、未加入の方についてもぜひ加入するようご案内します。会費は、大人も子供も一律年間三百五十円です。

交通事故が多発している今日、いっどこでどんな形で事故に遭うか分かりません。家族そろって交通災害共済に加入しましょう。

なお、この制度の詳しいことや加入・見舞金請求手続きなどについては、いつでもお気軽に役場の住民係へおたずねください。

▽加入申し込み受け付け場所

・川西町役場会計窓口

ねーん きん ぶくし

二十歳になったら
国民年金に加入しましょう

一月十五日は成人の日です。

晴れて大人の仲間入りをする皆さんには、成人としての多くの権利が得られると同時に、果たさなければならぬ義務や責任も生じます。

国民年金に加入することもその一つです。

国民年金制度は、国と加入者が連帯して老後の所得保障と不慮の事故に備えるとともに、生活の安定を図ることを第一の目的としている制度です。

国民年金に加入すると、老後の所得保障としての老齢年金はもちろんのこと、長い人生の途中の不慮のできごとにもいろいろな年金が支給されます。例えば、病気やケガで障害者になったときには障害年金が、一家の働き手であるご主人に先だたれ十八歳未満の子供を抱える母子家庭になったときには母子年金がそれぞれ支給されるほか、準母子年金、遺児年金、寡婦年金なども支給されます。

成人の皆さん。国民年金に加入し、将来の生活設計をより確かなものにしましょう。



保険料

四月からは
毎月納付に

国民年金保険料は、原則として三か月分ずつまとめて、年四回で納めていただくことになっていますが、保険料の増額によって、五十年からは二か月納付に切り替えさせていただきます。

しかし、今年の四月からは、保険料が一月五千二百二十円になりますので、四月分からは毎月納付に変更させていただきます。ご協力をお願いします。

「農業と暮らしを守る」

農業共済

転作に象徴される厳しい農業情勢の中にあつて、農業共済では、異常気象による減収や転作の定着化などに対応して、全相殺農単方式、また大豆共済を取り入れるなど、農家の安定生産確保のため、さらに補償の拡大と充実を目ざしています。

建物共済加入

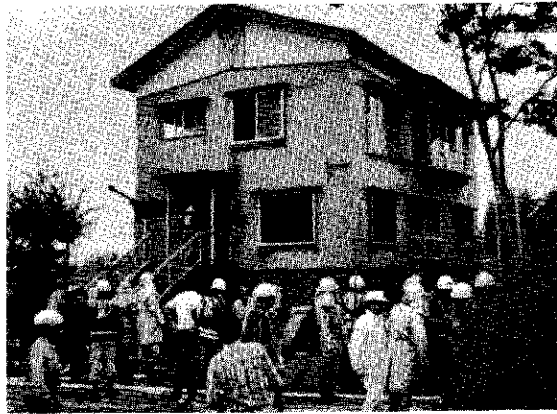
百十億円の信頼感

町の農業共済で実施している建物共済は、千八百戸の皆さんから、二千四百棟・百十億円の加入をいただいているように信頼され、多くの皆さんのお役に立ってきました。冬場の火災シーズンに備え、さらに高額加入によって、助け合いの輪を広げていただくようおすすめします。

家屋と家財で

二千五百万円の財産

現在、新築家屋の場合二・三平方メートル（一坪）当たり二十五万円はかかるといわれ、標準的な家屋ではおよそ千七百万円、また家財（家具、衣類など）は平均的な家族で八百万円くらいの調達価格が必要となりますから、合わせ



て二千五百万円以上の財産になります。

暮らしを守るため

米一俵分の備えを

これらの財産は先祖から受け継ぎ、あるいは何十年来の苦勞によって築き上げたものです。それが一瞬のスキで灰になったとしたら、

長年の暮らしも破壊され、暗い生活を強いられることになります。そんなことにならないためにも、

少なくとも米一俵分相当の掛金、千五百万円以上の加入はぜひしておきたいものです。

火の用心は

暖房器具と台所から

ここ数年、町内では冬期間に火災が起こっています。発生の原因は石油ストーブ、豆炭コタツなどの暖房器具の取り扱い不注意によるものが圧倒的に多く、次に石油風呂釜や台所のガスの消し忘れなどによるものが多いので、台所や部屋を空けるときには、よく確かめる習慣をつけるようお願いいたします。

ただ今加入者に

記念品をプレゼント中

ただ今農業共済では、部落の共済連絡員が記念品をお配りするなどして、建物共済の特別推進を行っています。掛金や加入額についてご相談のうえ、納得のいくまで検討し、ぜひ高額加入されるようおすすめします。また、不明の点などがありましたら、遠慮なく農業共済係へご連絡ください。

町史コーナー

動きの編さん

資料提供者（敬称略）

寺ヶ崎部落・清水邦吉、川崎信夫（学校町）、羽鳥仁平（伊友）、星名茂利（上野）、小海八太郎（小根岸）、田口一男（木落）

主な提供資料（一内西暦）

- ・刈干山五ヶ村割賦帳（二七〇）
- ・取極申対談書之事―官軍御用のため人足差出しの取極め―（一八六八）
- ・相渡申一札之事―打続く連作のため救米の願い―（一八三三）
- ・差上申一札之事―閩所通行の願い―（一八三三）
- ・出入一件落方書附三通―嘉藤治年貢不正取立ほか―（一八五〇）
- ・村鑑―川西郷及び近隣各村明細帳―（一六九四）
- ・三領木落両村新開江筋地代金割賦覚帳（一八二七）
- ・児童の

生活指導としての教育環境（一九三六）

以上総数一、五二〇件

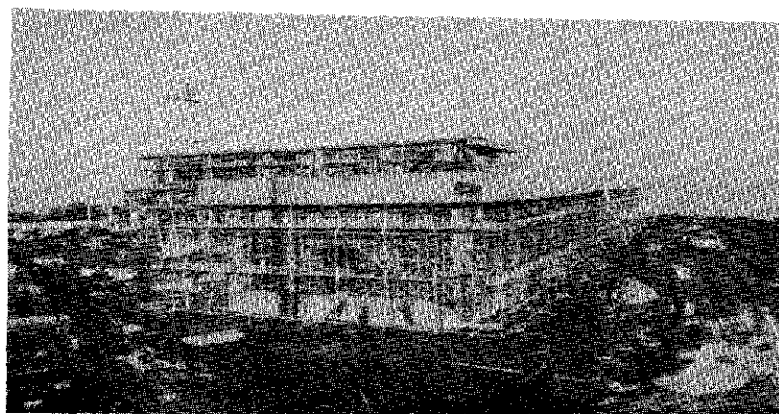
（十二月末日）

「町史こぼれ話」

歴史読物の静かなブームとでもいうか、身近な「町史こぼれ話」の売れ行きがよくてうれしい。町の昔をかいま伝えるこの冊子を求めて、毎日どなたかが編さん室をたずねてくださっている。余分を見越して印刷はしたが、この状態が続くといずれ増刷も必至のことになる。

第一集では実に残念なことをした。近世後半の貴重な「こぼれ話」を、いざ印刷という直前で次号にゆずらなければならなかった。収支のバランスを欠いてまで発刊するわけにいかず、当初の企画をかなり割愛して二百ページ以内に収めることにしたのである。活字に組まれて出番を待つこの部分は、第二集にはまちがいなく掲載できる。

「こぼれ話」の編さんを通じて、監修してくださった竹内教授はじめ、金山教育委員長や職者各位から得たいご指導をいただくことができた。その一例を仏教について記してみる。



十二月初旬の工事風景

「なかまの家」の職員募集

社会福祉法人あかね会では、精神薄弱者更生施設「なかまの家」の職員募集を次により行います。

▽職種・採用予定人員 別表のとおり

▽年齢 各職種とも五十歳まで

▽応募者説明会 日時・一月二十日午前十時から
場所・総合センター大ホール

▽職員採用申込書 説明後に配付します。

別表 職種・採用予定人員

職 種	採用予定人員性別	職 務 内 容	資 格 等	その他
生活指導員	性別不問 若干名	入所者の世話・生活指導等に従事する	大学で心理学・教育学・社会学等を修めて卒業した人	宿直早番・遅番の勤務あり
作業指導員	性別不問 若干名	入所者の世話・作業指導等に従事する	指導する業務について相当の経験及び技能を有する人	同 上
介 助 員	女若干名	入所者の世話・生活作業指導員等の補助に従事する	同 上	同 上

山野田地内 宅地分譲のお知らせ

町では、今回、次の3区画を分譲します。先着順で決定しますので希望者は早めにお申し込みください。

◎千手発電所降り口付近

山野田373-4 390.00㎡ 420万円

◎町営山野田住宅前

山野田380-39 473.91㎡ 498万円

◎サージタンク先

山野田380-63 523.09㎡ 523万円

※車庫用地 町営山野田住宅前

山野田380-50 53.60㎡ 37万円

●問い合わせ、申し込み先

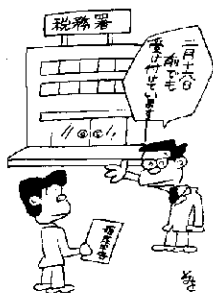
川西町役場企画室

(電話8-3111、有線2122)

還付を受けるための 申告はお早めに

所得税の確定申告の期間は、二月十六日から三月十五日までですが、税金の還付を受けるための確定申告は、二月十六日以前でも受け付けています。領収書、証明書、勤務先が発行した源泉徴収票など必要な書類を添付して、お早めに申告してください。

なお、サラリーマンの方が、医療費控除や住宅取得控除などを受けるために還付申告をする場合には、簡単な申告書用紙がありますのでご利用ください。



① これまでは何の抵抗もなく曹洞宗と呼んできたが、正しくは曹洞宗と言わなければならない。
② 永平寺貫主や曹洞宗貫長にまで進んだ高僧には、入寂後、俗人のように戒名をつけるのではなくて道号を贈る。③ 壇家の人たちが「おはぎ」を作るのはお寺の「月忌納め」である。④ お経のセンボウ・タンブツに用いる鳴鈴や、血脈を授けるとき導師がお経の区切りに打つ戒尺（法要の準備状況を知らせるときも使う）、お経の区切りや会図に用いる響子は、木魚・鉦なども含めて仏具と呼称する。

ご好評にこたえ、今年の秋までに発刊する第二集には次の内容を予定している。

正保年間に起きた北田如意庵の数奇な由来を、作家の長谷川伸先生が執筆して広報たちばなに連載した時代小説「呼魂」

文久元年の秋、滝谷琢宗が太郎丸の真福寺から川西を通り、三国街道を越えて江戸駒込の吉祥寺まで五泊六日の旅をしたときの「琢宗禅師道中日記」

庄屋様が百姓から上納金を過分に取り立て、この金を毎年少しずつ着服し、発覚して村中が大騒ぎになり、ときの井伊大老にまで越訴して十余年間も争った「仙田村のコバモン騒動」

三桶の渡しと荷継ぎをめぐつて、刈羽郡山野田村・三桶村と渋海川をはさんで赤谷村との間に起きた「荷継場の争い」

圧政にしいたげられて生きたことを示す「強かった幕府の支配力」、「旅稼ぎのいましめ」

苦しい生活の中で、小さな楽しみもなくはなかった「あこがれの江戸行」、「仙田の正月」

切なくて信仰に生きた「宗門人別帳」、「お庚申さま」、「三領のオノコサマ」

今は消え去ってしまった「千手のむかし」、「渋海川の筏師」、「座繰りまわし」、など。

近・現代史の史料紹介を兼ねて、千手町村・中野村・橋村・仙田村・上野村に起きた明治以降の動きも、年表にしてぜひ付録に加えることをお約束したい。

— お知らせ —

「町史ごぼれ話」第一集の残部があります。まだの方は新年を機会にぜひどうぞ。速くの人やお子さんにも送ってあげたいかがでしょうか。頒価は一冊千円です。ご希望の方は総合センターか役場の窓口（電話も可）でお求めください。

【お詫び】前号の写真解説（小さい字）のところで文章が前後したことをお詫びいたします。

交通事故のない 明るい町に……

新しい年を迎え、皆さんはいろ
いる抱負をお持ちのことと存じま
す。

昨年は町民憲章といっしょに交
通安全憲章を制定しています。こ
れは、悲惨な交通事故を家庭から
職場から、地域からなくそうとい
う願いのもとに作られたものです。
ここ数年、川西町内での死亡事
故ゼロの年はありません。昨年は、
五百日を達成した次の十一月十日
に死亡事故が起こってしまいました。
た。

交通事故をなくすためには一人
一人の自覚がたいせつです。
今回は、体験を通しての話を三
人の方から寄せていただきました。

配慮運転を お願いします

沖立 数 藤 巨 さん



高齢者の立場から、車を運転さ
れる皆さんに願います。

高齢者は、ほとんどが歩行者で
す。雪国でのこれからの道路情況
は、消雪パイプなどで常に路面が
大根オロシでもまけたような状態

になっています。そんなときに、
車が三、四十キロのスピードでこ
ようなものなら、そのシブキをよけ
るために、かさやこうもりで防ご
うとしても「バシッ」とやられて
しまいます。「ほんにまあニック
イたって、ニックイたって、どこ
の車だやら」。こんな小言がしょ
っちゅう聞かれる路傍のありさま
です。

私はそんなとき、「お婆ちゃん、
ただ残念がつてばつかいしないで、
あの車の番号を頭の中にしっかり

覚えておかっしゃれ、そうして警
察へ電話で届けらっしゃれ、警察
の衆が洗たく代を取ってくれるぜ
の」。こんな方向で指導してい
ます。

戦前は、雨天のときや前述のよ
うな情況のときは、どろよけを付
けないで走れば違反に問われたも
のです。

現在は、歩行者保護のために、
除行運転をし、歩いている人に迷
惑を及ぼさないことが義務づけら
れています。特に、ダンプの運転
には十分な心遣いを持ってほしい
ものです。

私も、過去六年間老人交通安全
推進員として指導してまいりまし
たが、最初のころと現在を比較し
てみますと、左側歩行のお年寄り
がたいへん少なくなったなあ、と

交通事故の悲しさ

人身事故ゼロの町に

上野 大 嶋 美 幸 さん

交通安全は世界の願い、という
標語ができてからもう何年も過ぎ

て、交通事故に対する国民の関心
は高まるばかりなのに、交通事故
の件数は毎年増えるばかりです。
そんなことはだれでも知っている
のですが、それは人の事であるか

のように多くの人は思っています。

私の家だけは、絶対に交通事故
など起こさないし、あわないと確
信していました。ところが、私の
家でも昭和五十四年十月に父が交
通事故にあってしまいました。私
はその日、初めて交通事故の恐ろ



しさを知りました。

その日は日曜日で、家ではうす
ひきが終わり、米出しに行く日で
した。私は朝からクラスみんな
と先生とでサイクリングに行きま
した。そして楽しいサイクリング
も終わり、家でテレビを見ていた

感じています。でも、雪国には特
殊情況の道路もあります。例えば、
高倉や白倉の道路は、右側歩行を
しなさい、とはいわれません。な
だれ、地すべりの心配があるから
です。それぞれの地域に添った歩
行で臨機応変に道路のまん中を歩
いてもよい、と指導しています。
こうした地区で運行される方は、
よろしく配慮し運転願います。

まだまだ年寄りと子供は、運転
者の立場から見れば危険人物です。
人生の終着駅に近い旅路の老人が、
交通事故で到着しないよう、させ
ないよういっしょうけんめい視聴
覚教育などを通して指導しています
が、皆さんからも今後いっそうの
配慮運転で助けていただくようお
願いたします。

(老人交通安全推進員)

のです。夕食のしたくもできて、
父や祖父がくるのを待っていました。
た。夕食では、サイクリングに行
ったときのできごとの話に花が咲
くことを考えていたら、急に「キ
キッドカン」とものすごい音が外
から聞こえました。何の音だろう
と好奇心がわいてきて外へ出てみ
ました。道路の方へは、もう近所
の人たちが集まって何やら話をし
ていました。私は友だちのところ
へ行き「おっかないね」といつ
ていろいろ話をしていました。す
ると、近所のおばさんが「あの耕

うん機、みゆきちゃんちのじやないの、みゆきちゃんちのお父さんがケガしたんじゃないの」といいました。私はその時、ふきつな予感がしました。よく見ると、耕うん機はすごいかわつこうをしていました。確かに私の家の耕うん機でした。それより十メートルも先に父がたおれていて、祖父が頭から血がでているのをタオルでおさえていました。もう足はガクガク

ふるえて、今どうしたらいいのかわかりませんでした。妹は泣いてしまふし、もう何が何だかわかりませんでした。それから間もなく救急車がきて十日町病院へ運ばれました。父は次の日まで気が付かず、病院で母に「ここはどこか、どうしてここにのいるのだ」と聞いたそうです。自分のケガなどはまだ分からず、体も自分では動かさない状態でした。

この事故のため、私の家では母が病院に父のつきそいに行つたため、私たち姉妹では生活ができないので、親せきの家にお世話になることになりました。みんな同情して親切に何でもやっていただきましたが、いくら親切にしていただいても、やはり自分の家にいるようなわけにはいかず、たいへん苦労しました。一日や二日ならよいのですが、つきそいが一月く

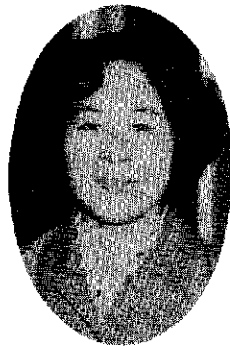
らいで、入院が七十日です。こんな長期の入院は私の家では初めてだし、私たちも人の家での生活は初めてで、妹などはときどき泣き出したりして困りました。

ただで終わってほしいものです。川西町では、死亡事故ゼロ日が五百日で残念ながらストップしてしまいました。これからは五百日といわず、千日、二千日と記録を伸ばしてほしいと祈っています。死亡事故ばかりでなく、人身事故ゼロ日運動ということで、私たち一人一人が協力して笑顔で暮らせる明るい町になるよう、心から望んでいます。(川西中一年)

交通事故防止は

家庭での話し合いから

根深 藤田 寿美江さん



す数は男性の方が多いようです。

さて、「自分だけは絶対に事故を起こさない」とだれしも思っています。絶対という保証はありません。道を歩いているところへ車が突っ込んでくることもあり、自分だけ正しい交通ルールとマナーを守っていても、災難はいつ降り掛かってくるかわかりません。幼児の飛び出し事故が一番多いと聞いていますが、急に飛び出されたのではブレーキをかけても間に合いません。母親の立場で、幼いころから子供たちに交通指導をしておく必要があります。私も過去に背筋が寒くなるよう

な苦い経験をしています。それは、秋の一番忙しい時期のとき、子供をバイクに乗せて保育園まで送り届けてから出勤するのが日課でした。その日も保育園に向かったのですが、保育園を目の前にして、右折しようと思つた瞬間のときです。「あつ」と思つた瞬間のときです。大きな車の前に投げ出されてしまいました。幸い子供はすり傷で済みましたが、私はヘルメットを着けていないので打撲傷となり、手がすりむかれ、顔ははれあがつたりで、お岩のようになつてしまいました。後で分かつたことですが、自分ではウインカーを出したつもりだったのに出していなかったそうです。

車にはねられたということで、近所の人たちが大ぜい駆けつけてくださいました。ケガを心配していただいたり、子供の世話をしてくださったりで、ほんとうにたいへんな騒ぎとなりました。多くの方々にたいへん迷惑をおかけしてしまいました。人々の親切がこれほどありがたいと思つたことはありませんでした。私がヘルメットを着用さえしていれば、もっとケガは軽かつたはず。事故に遭うようなときはどこかが抜けているのです。主婦にとって朝は分刻みの戦場です。そうじや炊事のほかに子供の世話でてんでこまひです。事故に遭つたときは気持ちが荒れていたのでしよう。

被害者である私の家族はみんなが苦しい思いをしました。加害者もまた同じ思いをされたことと思います。私の不注意もあつたのですが、たいへん心配していただき、出勤前の寸時をみては見舞いに立ち寄ってくださいました。ちよつとした不注意により、多くの方々に迷惑をかけてしまいました。このことは終生忘れることはないでしょう。

子供は今大きくなりましたが、あのときのいまわしいできごとは忘れていません。「母ちゃんからバイクに乗せてもらつて交通事故に遭つたことがあるね」といいます。幼なかつた子供も恐ろしさが身にしみているのでしょうか。「ごめんね、母ちゃんが悪かつたね」と事故当時のことを思い出すがに「気を付けるんだよ」と心にいい聞かせ警告しています。

先に皆さんから買つていただいたワッペンは運転免許証同様いつも身につけて利用してほしいものです。飲酒運転は未然に防げることです。また、全国交通安全母の会からのかわいいカレンダーを多くの方々から買つていただきありがとうございます。交通事故防止は家庭での話し合いからです。

(交通安全母の会会員)

昭和55年度 一般会計

経費節減に努め 3,489万円の黒字

昭和五十五年度の会計決算が済みました。今回は、一般会計決算の概要についてお知らせします。

決算額を前年度と比較すると、歳入で四・二％、歳出では三・八％の減となっており、二年続けて前年度決算を下回っています。

歳入の構成比では、町税が一四・〇％で前年度の一一・五％第五位から第三位になっています。これは、譲渡所得や料金改定に伴う電気税の伸びが大きかったためです。トップの地方交付税は三九・二％ですが、豪雪による特別交付税も加わっています。町の借金である町債の占める割合は一二・八％です。

一方、歳出では、公債費が前年度対比二〇・五％の高い伸びを示しています。逆に伸び率が下回ったもので目だつのは、災害復旧費の六二・七％の減があります。これは、五十三年度の「六・二六梅雨前線豪雪災害」の復旧

55年度一般会計

歳入 26億1,332万3,755円
歳出 25億7,842万7,461円
差引黒字 3,489万6,294円

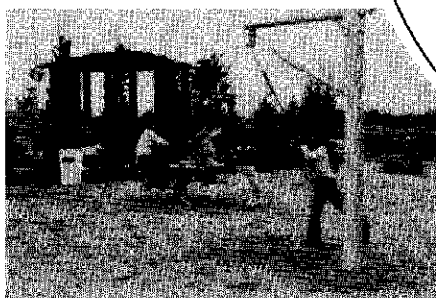
※ 500万円以上の項目を拾いました。

農林水産業費

401,503千円 (15.6%)

- ▶ 基盤整備事業補助金 10,000 ▶ 水田利用再編対策補助金等 7,256 ▶ 新農構近代化施設整備事業補助金 42,879 ▶ 土地基盤整備事業費補助金 39,721 ▶ 農地流動化奨励金 6,652 ▶ モデル道路整備工事 67,424 ▶ フラッシュ施設工事 18,115 ▶ 仁田農村公園整備工事 10,695 ▶ 村道開設工事 21,180

▼ 仁田農村公園



商工費

27,439千円 (1.1%)

- ▶ 町営駐車場舗装工事 7,500 ▶ 地方産業育成資金貸付金 8,000

土木費

338,269千円 (13.1%)

- ▶ 国道工事費負担金 23,110 ▶ 町道補修等工事 9,999 ▶ 道路改良工事 31,409 ▶ 舗装工事 45,040 ▶ 改良舗装工事 19,170 ▶ 補償費 5,440 ▶ 防雪対策工事 38,496 ▶ 特改四種工事 5,580 ▶ 建設機械庫工事 35,700 ▶ 浄土川改修工事 8,570

消防費

91,167千円 (3.5%)

- ▶ 広域消防負担金 83,953

教育費

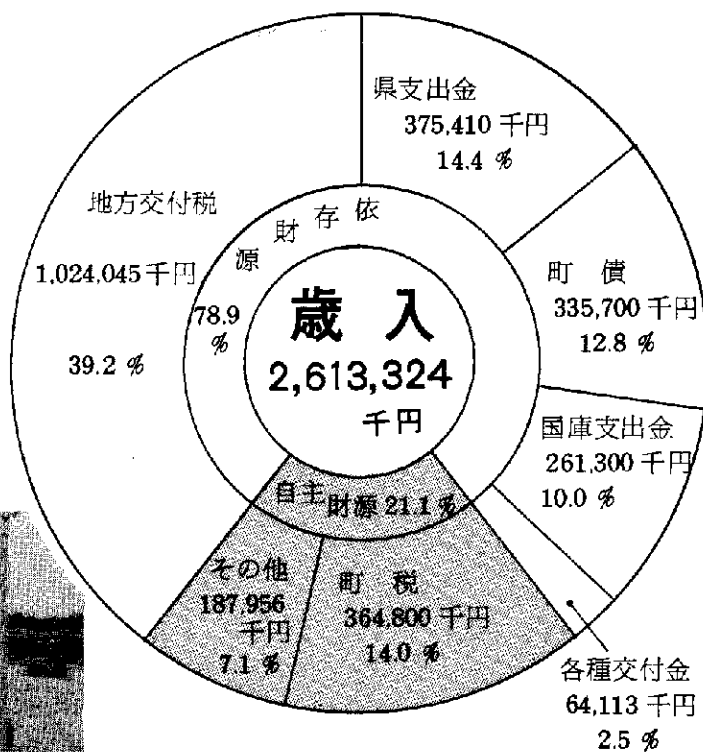
503,414千円 (19.5%)

- ▶ 千手小学校体育館・食堂設計管理 7,845 ▶ 同建設工事 252,000

災害復旧費

93,873千円 (3.7%)

- ▶ 農地農業用施設 67件 63,083 ▶ 公共土木施設 17件 15,097



公債費

245,506千円 (9.5%)

- ▶ 元金 110,830 ▶ 利子 134,530

諸支出金

18,650千円 (0.7%)

- ▶ 教員住宅譲受代金 18,650

▼ 千手小・体育館



町民1人当たりの税金

町民税 12,790円
固定資産税 19,060円
軽自動車税 499円
たばこ消費税 2,253円
電気税 1,657円
木材引取税 7円
合計 36,266円



境内には雪が見えません

消防出初め式が六日に行われまし
た。
この日は、一、二分団（千手地
区）と四分団（橘地区）で式があ
りました。千手神社境内で行わ
れた。二分団のほうへ行つてみ
ました。二日には栄町でボヤが出
ていますが、これからは無火災に
と、みんな祈願しています。

消防出初め式

こうほう びば

昭和五十七年がスタートしまし
た。
初雪が早かったので、またも、
昨年のような大雪になるのかと、
心配されていましたが、今のところ
は穏やかな新年です。
「初雪の早いときはあまり大雪
にならない」ということも言われ
ています。
さて、これからどうなること
でしょうか。

が前年度大きかったことによりま
す。これら
で、建設事業などの投資的経費は四〇・九％
となり、前年度より二二・七％減っています。
町債の五十五年度末借入残高は二十一億九千
万円ほどあります。
実質収支の黒字が三千四百八十九万六千円
余り出ています。「五六豪雪」による大きな
支出がありました。これだけの黒字となっ
たことは、経費の節減に極力努めたものと評
価できます。

歳 出

2,578,427千円

町民1人当たり
256,330円

議 会 費

43,584千円 (1.7%)

総 務 費

384,591千円 (14.9%)

▶中子地区土地購入費 40,229 ▶町
民プール用地購入費 21,533

民 生 費

299,020千円 (11.6%)

▶なかまの家福祉会補助金 7,280
▶医療費扶助金 54,771

衛 生 費

130,865千円 (5.1%)

▶衛生施設組合負担金 40,550 ▶
歯科診療所会計繰出金 11,611 ▶
簡易水道事業特別会計繰出金
13,700 ▶水道事業会計繰出金
10,700 ▶各種検診等委託料 5,415

労 働 費

546千円 (—%)



花田教授です

歯の矯正は

早いうちに医師に相談

新大歯学部付属病院長花田教授
をお迎えして、先月十九日に役場
の議場で歯の矯正治療について講
演していただきました。
集まった百人ほどの方々は、ス
ライドを中心としたお話を熱心に
聞いていました。
早いうちに医師に相談すれば、
短期間で治療できるし、費用も少
なくて済むとのことでした。

なかまの家の クリスマス・忘年会

先月19日、総合センターでは、
なかまの家のクリスマス・忘年会
が行われていました。4月には新
しいなかまの家が中子にオープン
します。



友情出演も

県スキー連盟が

小林雄三郎さんを表彰

昨年は、新潟県スキー連盟がで
きてから五十年目とのことでした。

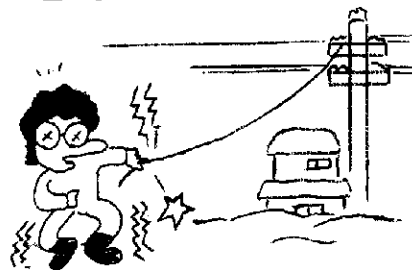
小林さんは、昭和二十三年の国
体（長野県・野沢で）で複合競
技（ジャンプと距離）に優勝する
など数々の栄光を残しています。



表彰状を手に小林さん

お知らせ

電線に注意しましょう



- ▶切れた電線やトランスには触れないでください。
- ▶切れた電線を見つけた方は東北電力へお知らせください。
- 十日町営業所 ☎ 02575-2-3107
- 真人出張所 ☎ 02588-6-3015
- ▶雪おろしには十分注意してください。

停電のお知らせ

- 2月5日(金)／正午から午後4時まで、坪山・霜条・鶴吉。

民俗資料

- 高橋賢治さん(田戸)から、せんべい焼機二組
- 高橋久蔵さん(三領)から、火事場の火の粉よけ

地場産業振興センター

愛称審査結果

十日町地域地場産業振興センターの愛称は、九十一人、百三十三点の応募がありましたが、審査の結果、入選は該当なしとなり、現在検討中です。

審査結果

- 入選 該当なし
- 佳作 「サントピア」 星名隆之さん(霜条)
- 佳作 「十日町シティプラザ」上村友治さん(新座)
- ※「十日町シティプラザ」は、ほかに一点あり、抽選により決定しました。

十日町高校

定時制中心校で

生徒募集

- 募集人員 普通科一学年四十人
- 願書受付 二月一日から二月八日正午まで
- 出願手続 入学願書・受験票・調査書・入学考査料(二百五十円)を在学(出身)中学校長を
- 募集人員 普通科一学年四十人
- 願書受付 二月一日から二月八日正午まで
- 出願手続 入学願書・受験票・調査書・入学考査料(二百五十円)を在学(出身)中学校長を
- その他 ①入学後、年間所得百二十万円未満の人には、国が卒業までの四年間、修学奨励金として、毎月七千円を支給します。
- ②以前に中学校を卒業した人も歓迎します。
- ③詳しくは、十日町高校定時制中心校へ(☎〇二五七五―二―三五七五、三五七六)

第60回

全国商工会 珠算検定試験

- ◆試験日 2月14日(日)午前9時から
- ◆試験場 川西町商工会館、仙田小学校
- ◆種目 1、2、3、の各級・乗算、除算、見取算、伝票算 4～8の各級・乗算、除算、見取算
- ◆受験料 1級1,000円、2級800円、3級600円、4、5、6級500円、7、8級400円
- ◆申込場所 川西町商工会館
- ◆申込受付 1月14日まで、申込書に受験料を添えてお申し込みください。
- ◆合格者には通商産業大臣の合格証書が授与されます。

わしの自慢

日本画に凝っています

岩瀬 登坂三吉さん

登坂さんが日本画に真剣に取り組むようになったのは、五、六年ほど前からだという。

たかきこの掛け軸が床の間に飾ってあったが、なかなかりっぱなできばえである。それもそのはず、登坂さんは画家の血を引いているとのこと。

そもそも、日本画を描き始めたのは、この道の大家である東村山市に住む兄さん(佐藤善松さん)の影響があったという。

兄さんは大工だったが、今では絵を描くのが本業らしい。日本美術院展に出

品して、たびたび入選もしている。

このような人が先生で、しかも血を引いているのだから上達するのは当然のことかも知れない。



「年に一回、一週間くらい石打の湯治場にいっしょになるので、教えてもらっているでエ」家業があるので、勉強は夜が主体になる。「花鳥画法十二ヵ月」「彩墨画法十二ヵ月」などの専門書も集めて研究している。

「風景から始めて人物に移るのがほんとうだが、私の場合にはたかきごや七福神が先になってしまつてそ」

これからは暇をみつければ方方へ出かけ、写生をしたいという。

「風景に鳥がからんだ掛け軸を描きたいと思うてエ」と抱負を述べられた。

登坂さんは絵のほかにもいろいろの趣味があり、はく製もそのうちの一つである。家の中には、たぬきやきじが整然と並べられていた。



次の善意が寄せられました。

●社会福祉のために

※馬場光雄さん（元町）から十

万

●老人福祉のために

※野沢肇さん（野口）から二万

円

※丸山誠一さん（原田）から五

万

●南雲藤平さん（中屋敷）から一

万五

●一般寄付金

※丸山工務所から百万円

●交通安全のために

※龍巳ドライブインから一万

●なかまの家建設・運営資金にと

※十日町地区婦人会から二万

●十日町市をつなぐ親の会（会

長・柳実さん）から三十万

●空き缶募金として関口潔さん

（千手小）から一万三千三百

●十日町市・中魚沼チャリティコ

ール実行委員会（委員長・柳実

さん）から一十二万六千

円

新しい嘱託員

①

（敬称略）

【千手地区】

○中島町・柳沢恒一、○山野田・

小林辰雄、○発電所通西・須藤莊

一、○発電所通東・田中峯吉、○

永久公舎・南雲直幸、○栄町・西

方敏夫、○山野田住宅・浅川啓一、

○県営住宅・清水賢司、○朝日町

・畠山一久、○四郎兼・渡辺賢一、

○東善寺・瀬賀良治、○上町・藤

巻晃、中央町・吉楽常作、○田中

町・木村敏行、○神社町・小海博

○学校町・高橋昭二、○中屋敷・

茂野重一、○寺尾・大井佐市、○

木島町・平野政利、○沖立・数藤

伸治、○伊友・星名忠夫、○高原

田・高橋正雄、○坪山・中村健一、

○霜条・星名昭次、○鶴吉・渡辺

勉、○木島公舎・佐藤重人

【上野地区】

○上野・松沢真、○新町新田・丸

山和夫、○二領・南雲金太郎、○

小根岸・小海敬太郎

【橋地区】

○木落・羽鳥欣一、○寺ヶ崎・高

津富士男、○塩辛・藤巻英一、○

仁田・秦野巳甥、○野口・滋野薫

良、○原田・丸山亥助、○根深・

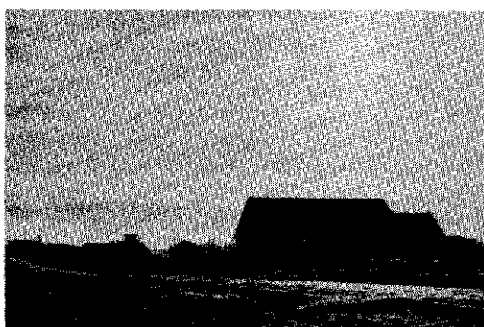
丸山新平、○下原・田中久義



正月三日の 各地の模様

今回は、正月三日に各地を回ってみましたので、写真で紹介します。二日に降った雪が、太陽に輝き、三日のうちでは一番穏やかな日でした。

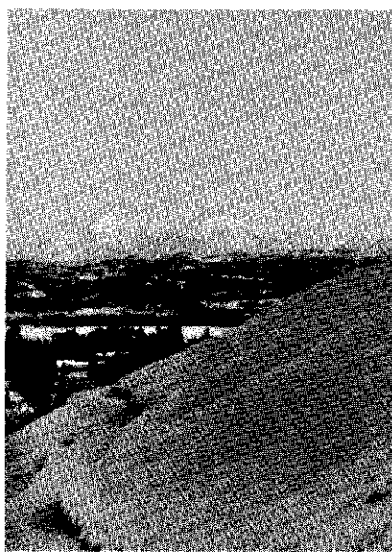
体育館の雄姿



▶中仙田のバス
停で



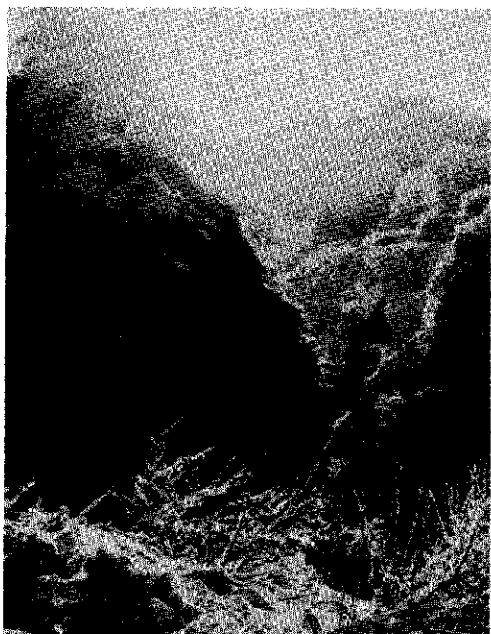
赤坂から野口方面、八海山を望む



▶小白倉のたたずまい



▶山水画のような風景（小脇トンネル付近）



健康づくりに三つの柱

皆さん、ご自分の健康に自信がありますか。健康こそ最大の宝です。

健康な体をつくる三つの柱は、

一つは食べること

二つには体を動かすこと

三つには休養をとること、です。

これらの要素が毎日の生活の中に調和よくとれば、特別病気がないかぎり健康な生活ができるものと思います。

一、食べること

朝食は抜いていませんか、昼食は簡単に済ませていませんか、夕食にとっさり肥り過ぎのものになります。

とかく、どこの家庭でも夕食には、ボリュームのあるごちそうが食卓に並ぶ傾向かと思えます。

一日のごちそうを、上手にバランスよく二、三度に分けて食べたいものです。

腹八分目、よくかんで食べましょう。一口のごはんを二十回かめますか、数えて食べてみてください。

甘いものは控えめにしましょう。野菜やたんばく類は十分に食べたいものです。

二、体を動かすこと

自分の年齢に合った運動をみつめましょう。

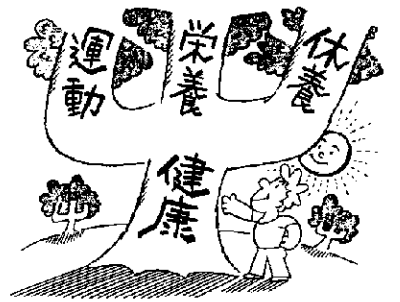
例えば、体操、縄とび、ジョギング、歩くこと、など。三日坊主はいけません。毎日続けられるものをみつめてください。

日常生活は、できるだけ活動的にし、見るスポーツではなく、実行しましょう。

三、休養をとること

毎日の生活は規則正しくしましょう。早寝の習慣をつけてぐっすり寝ましょう。昼寝は体にいいことです。

休日にはリラックスしましょう。入浴は疲れが取り除かれます。健康づくりは、以上三つの柱からです。



戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

南雲 昌裕 晃 長男 東善寺
尾身 麻美 正夫 二女 発電所通
柄澤 秀範 敏雄 二男 沖立
小林 理 崔 長男 木島町
押木 美穂子 哲 長女 元町
金子 早苗 博 二女 岩瀬
太田 記央 榮 長男 中島町

たかさこ—ご円満に

○新郎 和田 光雄 仁田
○新婦 仲村 裕子 長岡市から
○新郎 五十君利夫 野口
○新婦 野瀬 孝子 新潟市から

昇天—ごめい福を祈る

○新郎 野澤 弘一 野口
○新婦 野口 早苗 大阪市から
○新郎 高橋 郁男 坪山
○新婦 真壁 悦子 福島県から

大久保勇治 野口 五二
高橋 長榮 赤谷 五七
川崎 ミン 発電所通 六一
中村 平作 大白倉 六四
登坂 繁松 赤谷 六九
相崎 イマ 学校町 七一
小林 竹治 中仙田 七二
西山 トウ 下平新田 七七
押木 喜平 元町 七七
高橋 ハク 霜条 七九
馬場 ト輝 元町 八二
江口 ツヨ 小白倉 八六
数藤 忠吉 発電所通 九二



太田白南風選

霜条 星名 星光

○絞る枝吊り上ぐる枝雪囲い
一本の竿に吊り上げ雪囲い

○上柱大餅花を括りたる
餅花に黒光りして上柱

新年会天神ばやしという歌を
総代の看板吊し注連飾

赤谷 登坂 紅葉

新しき晒袋の柚子湯かな
軒にきて小さき影や三十三才
姫リンゴ少なきにきて三十三才

小千谷療養所 小川 益榮

注連飾なき病棟の初日かな
工事場のシートはためく雪野原
訪ふ人もなき病棟の師走かな

赤谷 高橋 笑子

正月や千両床に位置を換え
子の遊び相手に過ぎしお正月
手袋をして臍の手をいたわりて

門灯の八つ手の光り反しけり
赤谷 登坂 酔月

心配ごと相談

12月の交通事故発生件数

		累計	
件数	2 (1)	18 (31)	
死者	1 (1)	22 (46)	
傷者	1 (0)	1 (2)	
酒気おび	0 (0)	2 (3)	
酒気おび	0 (2)	18 (17)	

() 内は前年比較

・1月13日……橘出張所

・1月20日……克雪センター

・1月27日……総合センター

・2月3日……上野連絡所

・2月10日……橘出張所

※相談をされたい方は、社会福祉協議会(役場内)へあらかじめ連絡していただければ幸いです。

湯気上げて冬至南瓜の鮮かに

冬至の日とて柚子一つ買い足せり

青刈のうすみどりなる注連をなう

おだやかな小春続きて年暮る、

年の瀬や雪を待つ人嘆く人

新春陽日 太田白南風

新しき年新しき雪積る

万象のさまの新たに初明り

初空の下雪山のおおらかに

縫初赤き待針新しき

薄氷といふ美しきことばかも

雪雲の広がりしまた重なりし

大ひらの雪片となり地に消ゆる